



特定非営利活動法人

平成19年 秋号 NO. 34



<http://nepal-mika.jp>

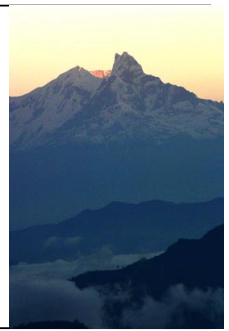
saito@westeast.co.jp

ネパール・ミカの会

平成19年12月15日発行

194-0035東京都町田市忠生2-5-36

tel042-791-0602



学ぶこと常にあり

理事長 齋藤 謹也



ある時、中川一政という洋画家(故人)が書かれた一行書が、目にとびこんできました。

ちょうど、ネパールの中間調査の帰国後に見つけたもので、言われてみれば何でもない言葉ですが、その時はその言葉に新鮮な驚きを覚えました。ネパールにもう 20 回以上通っていて、毎回ほぼ同じコースですが、その度に新たな出会いがあることに改めて感謝の思いが致します。そして、自分自身を反省し、また新たなネパールの一面をみるという思いで帰ってきます。

私達は、ボランティア活動をさせていただいており、その世間的評価は年月と共に高まっているように思いますが、常に初心に帰りながら、ネパールの人々や子ども達から学んでいることをしっかり胸に刻み込み、自分磨きを続けていきたいものです。

それぞれの「私のネパール」を確かめながら、「学ぶこと常にあり」という視点を忘れず、「出会いのミカ」のよさを、ますます発揮していく平成 20 年としたいものです。

一步一步前向きにゆっくり行きましょう。



2007 年中間調査報告

齋藤 孝



2007 年の中間調査は 9 月 30 日発 10 月 10 日着で齋藤謹也理事長/スルプ・ラマ理事/齋藤 孝理事/穂坂 光紀会員の 4 名で実施された。

行程は 9 月 30 日 21:50 の羽田発で関空・バンコク経由で 10 月 1 日にカトマンドゥに着いた。着後カトマンドゥの日本大使館を訪問し、翌 2 日にバイラワに着きルンビニのグルワニマイ小とスンディ小を午前中に訪問する。制服が一部完成していたのに感激をし、製作している店も数件訪問した。午後はマヤデビ校で新校舎の建設予定地を調査した。翌日の 3 日には民芸村の調査と診療所・寺子屋/マズワニ校/ルンビニ校/シリシリ・ラム校/ヤナトラハ校/グルワニマイ校を調査しブワール経由でタンセンに入る。夜はナグロ・レストランで各学校の先生方と夕食会と懇親会を行った。翌朝はヒマラヤの日の出を見てから早々の 7 時半にトリブヴァン大学理系を訪問しワーキング・スクール/JVT/セン校/モホン校/ミレニアム校を回り、昼からはトリブヴァン大学文系/シリナガルカレッジ/バイラワ経由でカトマンドゥへ。翌 5 日は朝スワヤンブナートへ参拝し、パドマ・カニヤ校/JICA/プロバイダー・PC ショップ/日本語学院/を各訪問調査し、翌 6 日齋藤理事長が帰国でカトマンドゥ空港へ送り、他 3 名はナガルコットへ。翌 7 日はチャングナラヤン見学しタメルで民芸品調達。8 日は穂坂会員が自由行動で齋藤孝はラマ氏と文殊菩薩の溪谷とキルティプルへ観光。夕方 JICA へアポを取ったが面会不可能となる。9 日カトマンドゥ発バンコク経由で成田へ 10 日 6 時 20 分定刻で帰国した。

今回も中間調査は多くの調査項目があったが、ルンビニでの重点項目として①制服の製作状況②マズワニ高校の早期

開校策③マヤデビ校の建設支援の方向付けを上げた。

- ① 制服は一部の学校で着用していて、製作もルンビニの数箇所で製作されていた。全体に行き渡るのに近いうちの可能となる。着用していた生徒が誇らしげに嬉しそうにしていた。



- ② マズワニ高校は来年の4月には開校となることになっていたが、机・椅子の設置や幾つかの条件が付帯となっていた。



- ③ 以前より要望があったマヤデビ校の建設支援で訪問した。建設にあたっては、村をあげて協力をしマオイストまで全面的に応援する体制をとるそうである。3 教室の建物を予定として会で検討することを伝えた。ただネパールでは建設資材が高騰していて嘗ての見積の倍近い予算があてられることが懸念される。



他に各校より多くの要望があったが、多くは机椅子の不足が目立った。また、マズワニ校は学校の周囲にへいを造り入口には正門を設置したら学校らしくなると要望があった。この学校では各教室が整頓され綺麗に清掃されていたのに好感がもてた。

タンセンでは各校から図書要望書を受け取り一部の学校では実験機材の要望があった。タンセンでのミカの会は大変評判が良く、毎年訪れることを希望された。



カトマンドゥでは、パドマ・カニヤは(株)ナカオの寄付金で折りたたみ椅子の寄付を決めた。日本語学院にはインターネットのブロードバンド化を計画していたが、接続料は月に6000ルピー〜6666ルピーと高価でPC機材に関しても機種が少なくネパールでのコンピュータ環境は程遠い状況であった。その為、ラマ氏の要望は授業で使う日本の写真と食堂にあるサンプルの要望があった。

よつばまつりと
相模原国際交流フェスティバルに参加して

中野 千恵子



6月17日に町田の市民ホール横の広場で、幸せはこびの願いをこめての「よつばまつり」に参加しました。「第19回わんぱく相撲東京大会」も同時開催でした。

初めての参加でしたので、どの様に行われるのか？ 参加人数は？ 梅雨どきなので天候は？ 等、いろいろ不安な状況でした。勿論、事前に打ち合わせもあり、青年会議所の人々の熱意も伝わりました。

当日の天気は上々。お祭り日和。持参した机、椅子、テント、ガス等を用意しましたミカの会の場所は会場に入って、すぐの所だったので、売れ行きも良く、焼きそばは用意していた分が足りなくなり、そばを追加したぐらい。又、衣装ケースの中に氷を入れ、冷たくなったラムネ、缶のお茶類も良く売れた。氷を沢山作ってくれたミカの会員のお陰だ。ハッシュドポテトも完売。民芸品もまあまあの売れゆきだった。



10月21日は毎年参加している「相模原国際交流フェスティバル」今年は「国を越え、思いは同じ世界の平和」をスローガンに行われました。当日はプロミティふちのべ、大野北公民館、国際学生会館の三ヶ所で開かれました。大野北公民館の裏の駐車場では、フィリピン、タイ、カンボジア、韓国、中国料理などが参加。ミカの会は玄関前で、焼きそば、ハッシュドポテト、ネパールティ、ネパール民芸品、リサイクル品などの販売です。毎年、参加しているので、なじみの客もいて、顔を出してくれます。残念ながら、昨年より、全体の参加人数も少なかった為か、売れ上げもまあまあというところでした。この時期はあちらこちらで、おまつりをしているので人が集まらなかったと、本部の人達も言っていました。二つのお祭りとも、参加料が無料はミカの会としては、大変助かります。少しのお金でも、ネパールの子供達の為に使えますから。そして、いつも、大事な時間を割いて手伝ってくださる会員に感謝です。ご苦労さまでした。

栄通りフェスタ

担当 松浦 陽子



9月9日(日) ぱんだ駐車場にて栄通りフェスタが行われました。心配していた天候も台風一過の素晴らしい天気にも恵まれ一安心。長年積み重ねて来たミカの会バザーの連携プレーで民芸品・手作り、リサイクル品・食バザーと、それぞれの担当者が手馴れた働きをしてくれ、本当にスムーズに出店準備が進行、新メンバーの方達も率先して働いて下さりとても頼もしく感じました。

途中からバザーに加わった方達、短時間で帰られた人、最後まで手伝ってくれた方、それぞれが出来る協力をして下さいました。お天気が良かったので思ったより人出が多くてラムネやお茶、焼きそば、ハッシュドポテトも良く売れました。協力者総勢 17 名。お疲れ様でした。



町田大道芸

担当 和田 泰子

10月6, 7日 今年も主催者のご厚意で町田大道芸に出店することができました。2日間とも晴天に恵まれ、いつもの食バザーはなかったかわりに、バザー出店はネパール・ミカの会だけという好条件(?)のもと、延26名もの会員の協力があって、売り上げを大きく伸ばしました。また、主催役員の方がミカの会専用の投げ銭箱を用意してくださり、そこに入れられた貴銭をすべて会に寄付して下さるという有難く、うれしいことがありました。主催者の皆さま、また永く大道芸のイベントに貢献していられっしやるミカの会会員T・Sさんに深く感謝いたします。



福祉フェアに出展して

担当 青沼 義信

福祉フェアは11月1日～3日の桜美林大学太平館の1階太平ギャラリー及び4階401・402教室を会場として開催されたが、桜美林大学の大学祭の中での出展の為、福祉フェアは大学祭の一部分のような観があった。

出展内容は、販売活動が出来ないので、①会の活動内容の写真など30枚②パソコンのスライドショーによる活動報告③ネパール民芸品の展示で、展示期間は2日3日の2日間となった。

ブースが4階だったことと、大学祭の真っ只中でのフェスタだったため、来場者が学生と出展関係者がほとんどで、たまに学生の家族とおぼしき人が来る程度で寂しい限りだったが、3Fの教室で学生運営のネパールの民芸品(ネパールバザーの品)を扱うブースがあったり、ネパールに関心のある学生が熱心に説明を聞いてくれたりと、ネパールに関心を持っている学生がいたのが救いだった。

※参加者は大谷・和田・加藤(誠)・齋藤(美)・青沼でした。



夢広場

齋藤 孝

今年も夢広場が11月4日に開催されましたが、実行委員会・事務局に私は途中から呼びかけられ出席し、開催直前にはネパールへ中間調査に行ったため進行の流れが良く掴めなく開催の日となりました。その為連絡等の不徹底さがあり皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びします。

今年は会場がぼっぼ町田・街かどギャラリー・浄運寺の3会場となり、ぼっぼ町田は食バザー・街かどギャラリーは子どもの絵画と各サークルの案内ブース・浄運寺はリサイクルを中心としたバザーの会場となりました。

当会としては、手伝いの動員の不安もあり浄運寺会場の出店は見合わせ、ぼっぼ町田の食バザー中心で出店した。実行委員長の坂氏の配慮で民芸品の販売も許可となり土田氏のいつものながらの奮闘で売り場の準備や調理、民芸品のディスプレイは手際よく出来てスムーズな運営であった。焼きそばは予想外の馬鹿売れで13時に120食を完売しハッシュポテトは14時半に120個完売した。民芸品もまあまあの売れ方だった。

当日は暖かく快晴で、街もいつもより人出が多く活気があった。連絡などの不徹底さがあったが、イベントとしては成功裏に終了した。



インド・ダラムサラ滞在記

内藤 理絵

11月上旬に現地5日間という短い期間ではありますが、“リトル・ラサ”と呼ばれる、チベット亡命政府のあるインド・ダラムサラを訪れました。その旅行記と今回の滞在中に行われたダライ・ラマ法王14世のティーチングについて報告したいと思います。私にとって今回のダラムサラ(実際にはダラムサラ高地の「マクロードガンジ」と呼ばれるチベット人が多く住む地域で、ダライ・ラマ法王の住居がある)への滞在は4回目となりました。



(インド通貨 1ルピー=約3円 11月10日時点)

<日程>

- 11月3日(土) AIR INDIAにて空路、デリーへ
- 11月4日(日) 夕方、オールドデリーにあるチベット人居住地区マジョスカティアより
夜行バスにてヒマーチャル・プラデシュ州、ダラムサラへ(寝台クラス 600ルピー)
- 11月5日(月) 早朝、ダラムサラ村上部、マクロードガンジに到着
- 11月6日～11月8日 ダラムサラ・マクロードガンジ滞在
- 11月9日(金) 午前・午後 ダライ・ラマ法王14世によるティーチング。夜、夜行バスにてデリーへ
- 11月10日(土) 早朝、マジョスカティアに到着 夜、AIR INDIAにて空路成田へ
- 11月11日(日) 午前、成田着

11月5日早朝、マクロードガンジに着いてからまずは宿探し。法王のティーチング間近ということもあり、時期の割に旅行者が多い印象。(今回滞在した宿はチベット人経営で、シングル1泊200ルピー、ホットシャワー付)宿の他の滞在客は韓国からの巡礼ツアー客。

シャワーを浴び、早速ダライ・ラマ法王住居(パレス)の向かいにあるナムギャル寺へ向かいます。2日前に法王がカナダ講演から戻られたばかりとの事で、お寺に向かう道には、お迎えの際に描かれたチベット仏教の八吉祥の絵が残っています。ダラムサラでの法王のティーチングは、このナムギャル寺境内にて行われます。

法王がお戻りになる時は多くのチベット人の経営するお店は休みとなり、寺院内の沿道には八吉祥の文様を描き、旗を飾り、お香を焚き、お帰りをみんなで喜びます。



(写真1:道に描かれた文様)



(写真2:ナムギャル寺とチベット人僧侶)

昨年からの友人達でチベット本土に帰った人もいれば、結婚等でインドから他の国に移った人、冬を迎えるダラムサラから温かい地域のチベット人居住地に移る人など、小さなコミュニティではあるが人の出入りが多く、亡命者という立場にある彼らの住処という概念について考えさせられました。

夜、チベット人の友人と9月にNHKで放送されたチベットの現状を伝える番組のDVDを鑑賞。内容はチベット自治区の州都・ラサに外国人向けホテルを構え、チベット人から買い取った骨董や仏像を売買する中国人商人の姿を追ったもの。数年前にチベットを後にした彼らにとって、現在のチベットの内情を知る機会は少なく、こういった現状を是非彼らの目に触れさせたかったのです。政党関係の仕事をしている友人にDVDを託したところ、多くのチベット人に見せたい、と真剣な眼差しで見入っていました。

11月6日はナムギャル寺敷地内にある歴史博物館へ。今回のティーチングの為にモンゴルからやってきた人々の絵画と作品展が行われていて、大勢の人で賑わっていました。(入場料5ルピー)

11月7日～11月8日、ダラムサラから5時間程登ったトリウンド山へ友人とトレッキング。(ダラムサラ標高 1500m、トリウンド頂上標高 2900m) 巨大な岩下にある空洞で、集めた枯れ木と牛の糞の焚き火でトックパの夕食を作り、就寝。もともと遊牧民の生活をしていた彼らの手際の良さには驚きます。

翌日は下山途中に少し雪に降られ、この日を境に急に寒くなりました。



(写真3:トリウンドにてルンタを飾る)

11月9日、ダライ・ラマ法王のティーチング当日。今回はロシアとモンゴルのチベット仏教徒による要請で行われた1日のみのティーチング。開催は出発の数日前にインターネットを通して知り、この偶然に非常に驚きました。一年の多くを外国や他の土地での講演等に費やす法王は、ダラムサラにいることは少なく、今回の短い滞在中にお目にかかる機会があるなんて本当に大きな喜びでした。

ダラムサラで行われるティーチングは、セキュリティオフィスでパスを作成すれば(5ルピー)外国人でも寺院内での参加が可能です。また携帯ラジオの持込が許可されているので、英語等での同時通訳を聴くことが出来ます。

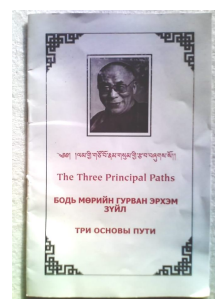
以下、今回のティーチング概要を纏めます。

...

朝9時前、法王がパレスよりナムギャル寺に入る。仏陀の加護を得る真言を唱え、ティーチングの始まり。寺院内に座ると僧侶より今回の内容に関するテキストが配られる。(チベット語・英語・ロシア語・モンゴル語訳付)

午前のティーチング中、僧侶によりティーチングに集まった人々にバター茶が注がれていく。11時から昼休憩を挟み、午後1時に午後の部が開始。午後にはミルクティーが配られる。午後3時半終了。

今回の題目「The Three Principal Paths / 修行道の3つの要素」



① 出離の心

苦しみを認識し更にその苦しみから解放されたいと願うことで、出離の心が育つ。

また、自分の持つ煩惱こそが諸苦痛を作り出し、その煩惱の束縛から解放されることで、苦しみからも解放されると知ることが大切である。

② 仏性を育てる

我々は自分以外の全ての他者を慈しむ心、菩提心を持ち、養わなければならない。

菩提心を持つことで自分の中に勇気を見出し、物事に立ち向かう事が出来る。

...それではその菩提心はどうしたら養うことが出来るのか。

→空の思想による

③ 空の思想

我々はものを見るときに、自分の視点から物事を判断しがち

である。しかしそれではそのものの真実を見落としてしまう。例えば「私」という存在を考えると、実際には自分の身体を指して「私」と呼んでいるのであって、それは本当の自我とは異なることを知らなければならない。「私は音楽を聞きます」という場合、それは実際には自分の身体感覚器官(耳)の働きであり、自我が感じているのではないということ。自我とは感覚器官ではない。

それでは、本当の「私」とは何でしょうか。

「私」という自我意識を論理的に検証していくと、実は自我という存在はないということに気付くでしょう。我々は自分にとって魅力的に見える対象物に対しては執着を抱き、また魅力的で無いものに嫌悪を抱きます。しかしそれは自我が作り出した視点によるものであり、物事の本質を理解しているのとは異なります。

このことがきちんと理解できれば、こういった執着や嫌悪の気持ちをなくすことが出来、それによって生じる苦しみから解放されるのです。

我々は母親の子宮に宿りこの世に生を受けた瞬間から、2つの心の要素を持っています。善と悪です。私達はその善の部分の養い、慈悲の心を培うことが大切なのです。

....

法王は時々ご自身の体験に基づく例え話を交えながら、とてもリラックスした面持ちでお話をされていました。終了後は大勢の信者が見守る中、合掌をし、最後までにこやかに境内を去りました。

午後3時半過ぎティーチング終了。寺院内のマニ車を回し今回の旅のお礼をしつつ、急いで宿に戻り帰国の準備。友人達に再訪の約束をし、6時発のバスでダラムサラを後にしました。この晩モンゴルからの信者達によるオペラが開催されたそうですが、残念ながら私には時間が無く、観ることが出来ませんでした。

また丁度この日はヒンドゥー教のお祭りディワリで、デリーに向かう町々の建物は電球で彩られ、花火や爆竹で賑やかな夜でした。明け方デリーに着くと前夜からの花火の煙と濃霧で、町の中は2メートル先も見えない程。それでもマジョヌカティラにある仏教寺院にはお祈りと供物を捧げにチベット人が集まっていました。

あっという間に一週間は過ぎ、後ろ髪を引かれる思いでインドを後にしました。またきっと戻ることを確信しながら。

一後日一

帰国翌週の11月20日、ダライ・ラマ法王の来日公演が横浜で行われました。私はこの講演を聴講できた幸運に加え、日本にあるダライ・ラマ法王日本事務所の方のご好意で、後日ダライ・ラマ法王にお会いする場に同席させて頂きました。護国寺ご訪問の際には、握手をしていただくという祝福を頂きました。チュパを着た私達を見て、法王はにこやかに微笑しました。

May peace prevail on earth. Tashi Delek.



(護国寺にて、チュパを着て)

ルクラ 酸素濃縮器



11月の始め中野理事・山下・濱崎会員等はヒマラヤトレッキングに行き、ジャンモさんのルクラにある病院を訪問しました。今年皆さんの寄付金で寄贈した酸素濃縮器が設置され、フル活用となっていて訪問の際もこの機械で治療をしている光景を確認されました。ジャンモさん始め病院の皆さん地域の方も大変喜んでいたとのことです。

ボラ連バザー

12月9日ぼっぱ町田でボラ連バザーが行われ、当会も例年の通り出店した。晴天に恵まれ歳末の第2日曜日ということもあり、人出が多く売上も予想以上あった。当日は会員の手伝いは延べ人数が23名でした。



編集後記

前回から会報を引き継ぎ今回も発行が送れたこととお詫びいたします。

年末を控えて皆様大変忙しいところに原稿依頼をしました。が今回は全員から原稿が集まりませんでしたが、寄稿いただいた会員さんにはあらためてお礼申し上げます。 T.S